

## インドネシア人移住労働者における 帰還後のライフステージに向けた再統合

Reintegration towards the life stage after returning home  
of Indonesian migrant workers

中谷 潤子（NAKATANI Junko）

本研究は、近年増加している海外への労働移民のうち、インドネシア人移住労働者を対象に、海外労働を終え帰国してから、インドネシアで次のライフステージをどう構築しているのかを明らかにするものである。特に最近、海外労働移民を対象にした研究は多いが、帰還後国で生きていくための課題、そのための支援体制などに着目した研究は多くない。

初年度である平成29年度はフィールドでの調査を中心に行った。8月にジャカルタで移住労働者送り出し機関とインドネシアの政府機関を訪問し、インタビューを行った。9月には東ジャワ州で調査をした。東ジャワ州の集落（カンブン）では、元移住労働者の自立組織の事例を知ることができた。その後、11月には台湾調査を行った。台湾ではインドネシアからの移民の声を聞くとともに、台湾政府の移民政策について関係者に聞き取りをし、移民コミュニティを訪問することで支援側と移民側の双方について知ることができた。さらに、インドネシアから日本への移住労働者の例として、元EPA看護師にインタビューを行った。インタビューでは、日本での労働体験や海外体験が帰国後の人生のライフステージ構築にどう関わるのかライフストーリーを語ってもらった。

3月には、9月に訪れた東ジャワ州を再訪した。その際は自立支援組織の調査に主眼をおいた。NPOによる支援活動と元移住労働者自らが立ち上げた自立支援組織を訪問することができ、その経緯や苦勞、展望等を知るとともに各地域や組織を比較することもできた。この東ジャワ州のフィールドには研究期間中継続して、調査に通うつもりである。

元EPA看護師へのインタビューについては、3月の日本語教育学会関西支部集会でポスター発表を行い、いくつかの指摘を受けた。それを踏まえ今後も継続調査を行う。

次年度は、同調査フィールドで継続調査を行うとともに、東ジャワ州以外の動向、そしてインドネシアにおいて活動家が元移住労働者支援に至った流れ等をみていく。

また、研究結果を公表し他者の見解や意見を知ること、さらなる研究の展開に生かし、本研究での課題が明らかにできればと考える。